

- 口は、生きるの1丁目。 -

からだの働きとウイルスについて勉強しよう！

～ラクトフェリンとウイルスに関する研究～

人間の身体には、外から侵入してくるウイルスや菌などを防ぎ、生体を守る生体防御のはたらきがあります。このはたらきを、担う物質のひとつが『ラクトフェリン』です。ラクトフェリンは、唾液や、涙、汗、リンパ腺、鼻粘液、腸管など、外と接している粘膜を保護する分泌液などの中に含まれており、年齢や性別を問わず必要な成分です。

また、ラクトフェリンは母乳（初乳）に特に多く含まれており、免疫力が十分ではなく、ウイルスなどの攻撃にさらされやすい状態にある、赤ちゃんを守ってくれます。



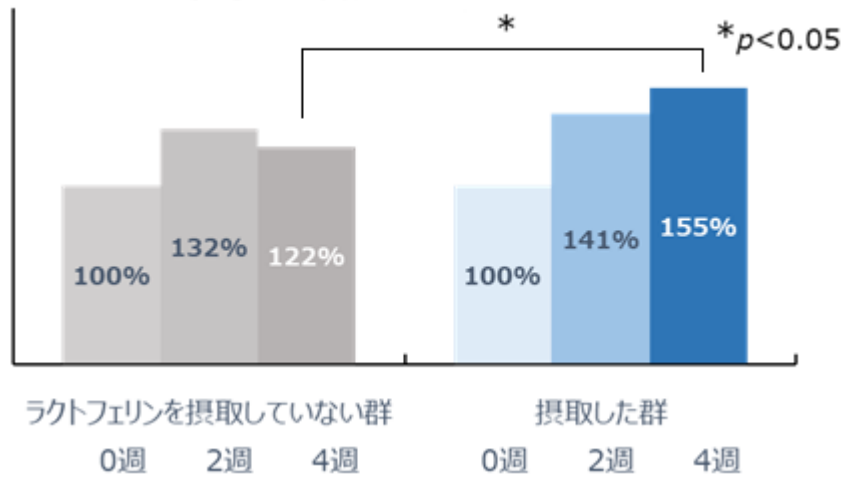
この唾液などに含まれるラクトフェリンとウイルスの関連については、多数の研究結果が報告されています。そのなかから、2つの研究報告をご紹介します。

「免疫グロブリン A」とラクトフェリン

1つめは、「免疫グロブリン A (*)」とラクトフェリンについてです。健康な成人男女30名に、ラクトフェリン（1日あたり270 mg）を含む食品を4週間摂取してもらうことで、だ液中の「免疫グロブリン A」の分泌が増えたという報告があります⁽¹⁾。

(*)「免疫グロブリン A」：免疫の中で大きな役割を担っているのが免疫グロブリンで、喉や気管支、腸などの粘膜の表面に存在しています。「免疫グロブリン A」はウイルスなどが、口や鼻、腸などから体内へ侵入する際などに働きます。

だ液中「免疫グロブリンA」の増加率



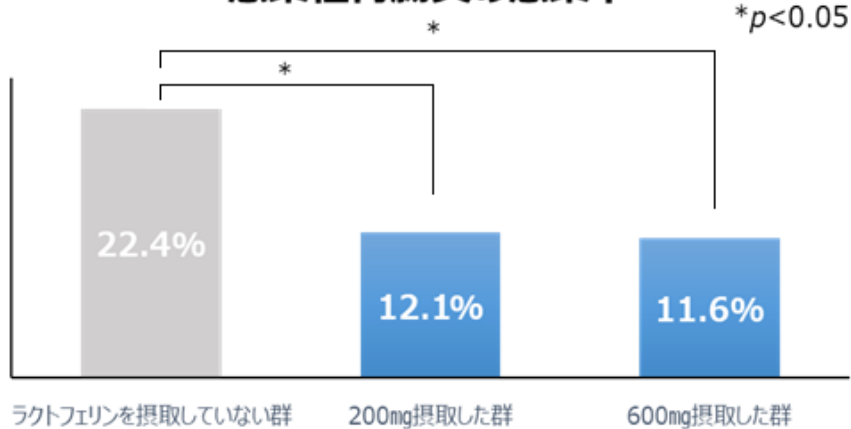
ラクトフェリンを摂取していない群：ラクトフェリンを含まない食品を4週間摂取した群(30名)
摂取した群：ラクトフェリン（1日あたり270mg）を含む食品を4週間摂取した群(30名)
※ 縦軸は0週目のだ液中「免疫グロブリンA」濃度を100%としたときの増加率

感染性胃腸炎（*）とラクトフェリン

2つめは、感染性胃腸炎とラクトフェリンについてです。

幼稚園と保育園の職員346名（解析に用いられたのは335名）に、ラクトフェリンを含む食品（1日あたり200mgまたは600mg）を12週間摂取してもらうことで、感染性胃腸炎への感染率が低減したという報告があります⁽²⁾。

感染性胃腸炎の感染率



ラクトフェリンを摂取していない群：ラクトフェリンを含まない食品を12週間摂取した群(116名)
200mg摂取した群：ラクトフェリン200mg/日を含む食品を12週間摂取した群(107名)
600mg摂取した群：ラクトフェリン600mg/日を含む食品を12週間摂取した群(112名)

(*) 感染性胃腸炎：ノロウイルスなどのウイルスや細菌によって引き起こされる感染症で食中毒だけでなく、人から人へと感染することが問題とされています。

ラクトフェリンは、赤ちゃんから大人まで全世代を守る「生体防御成分」です。唾液以外にも様々な分泌液に含まれており、お口だけでなく、全身を守っています。

上記のような免疫機能やウイルスに対する作用以外にも、ラクトフェリンには様々な効果があることが昨今明らかになりつつあります。サンスターは、引き続き「100年 mouth100年 health」を実現するための研究を続けていきます。

サンスターは「100年 mouth100年 health」を事業ミッションとして、お口の健康を起点とした全身の健康を増進する製品、サービスを通じてみなさまの幸せな「健康寿命」の延伸に貢献します。

参考資料

1. 今中ら, ラクトフェリン 2017 : 115-118, 2017.
2. 水木ら, ラクトフェリン 2017 : 49-56, 2017.